

## 令和2年度和歌山県立紀伊風土記の丘評価

紀伊風土記の丘館長による評価	<p>岩橋千塚古墳群の整備・公開、資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育・普及などの業務を積極的に推進している。</p> <p>古墳群の整備事業では、天王塚古墳の整備として、連絡道路整備のほか古墳整備の基本設計を行った。また、検討を重ねて特別史跡岩橋千塚古墳群第3期整備計画を立てた。前山A13号墳及び大日山35号墳の排水溝について調査を実施し、今後排水施設の整備をする。</p> <p>資料の収集では評価委員会を開き、岩橋千塚古墳群の鉄製品等資料を購入した。展示・研究としては、和歌山市と協力して、岩橋千塚古墳群の未公開資料の埴輪を展示した。</p> <p>教育普及については、新型コロナウイルスの感染拡大に懸念があり、体験事業等を中止・制限した。その中、小学校等へ直接出向いて行う出前授業は、前年度並み（参加人数は前年を上回る。）の実績を残すことができている。</p> <p>ホームページをリニューアル中であるが、ほぼ大枠は運営できている。ホームページを活用し紀伊風土記の丘からの情報発信を更に進めていく。</p> <p>新館建設事業については、建設用地の購入は終了したが、コロナ禍により、和歌山県の予算的に新館計画が遅れることになった。今後、新館でも利用できるデジタルコンテンツの整備を進めながら、各業務を進めていく。</p>
評価部会による評価	<p>館全体が意欲を持って、積極的に活動できている。</p> <p>特別史跡「岩橋千塚古墳群」周辺の整備事業の白眉ともいえる天王塚古墳の整備については、周辺道路、石室の調査と保全とも、活用のための安全・利便と社会還元および遺構の保全といった様々な条件をバランス良く調和できるものとなり、機関全体の今年度事業として有効なものとなった。他の構成古墳の保全についても、適切な対応がなされている。また、資料の収集・保存も着実に進行している。</p> <p>資料収集では、評価委員会を開き岩橋千塚古墳群の鉄製品を購入したことは、長期的かつ積極的な解決策を目指している点で評価できる。</p> <p>教育普及では、コロナ禍の中でイベントや体験事業等の制約が大きかったが、可能な範囲の中で実績を残し、出前授業は前年並みに実施した点は評価する。</p> <p>ホームページのリニューアルにより、頻繁な更新がなされ日常的な紀伊風土記の丘の情報発信に努めている点も評価する。</p> <p>新館建設もコロナ禍の制約を受けたが、全国的にも注目されるところであり、計画の時間が増えたことを積極的にとらえ、時代に応じた新しい手法による博物館の実現が期待される。</p>

## 1. 岩橋千塚古墳群の保存整備・公開

館長による所見	<p>岩橋千塚古墳群の整備事業は、天王塚古墳を中心に業務を進めた。</p> <p>平成29・30年度に実施した第2次・第3次発掘調査の成果については報告書を刊行し、同時期に進めていた整備事業の成果も整備事業報告4で成果を報告した。</p> <p>墳丘・石室整備のための基本設計を作成し、天王塚古墳の整備を中心とした第3次整備基本計画も策定した。</p> <p>天王塚の連絡道路整備は、国の予算の関係で工程が遅れているが、実施設計完了予定の令和3年度末には完成し全体工程に影響が与えないよう進める。</p> <p>前山A13号墳・大日山35号墳の横穴式石室では、滞水が問題となっているが、古墳群のモニタリングを続けて、随時優先順位を確認しながら、整備・活用を進めていく。</p>
評価部会による所見	<p>天王塚古墳の発掘調査の成果は、予定の時間内で迅速かつ充実した報告がなされ、学会においても高い評価を受け、整備計画の進展ともども社会の大きな注目と期待を受けており、高く評価できる。</p> <p>当館にとって極めて重要な岩千塚古墳群の保存整備がしっかり実施され、その成果物も順調に刊行され、広大な敷地に所在する施設と資料が確実に整備されている。</p> <p>墳丘・石室整備のための基本設計を作成し、天王塚古墳の整備を中心とした第3次整備基本計画も策定できたことは、大きな前進である。</p> <p>天王塚古墳への連絡道路整備についても着実に進められているが、古墳の早期な公開を期待する。</p> <p>前山A13号墳・大日山35号墳の横穴式石室での滞水は難しい問題であるが、状況調査も含めて適切な対応ができています。</p>

### ①古墳群の維持管理

#### A. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

令和2年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に実施。急を要する場所が出た場合は優先的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。
自己評価・課題・改善案	<p>業務員による日常的な園内の管理・清掃により美観が保たれており、園内を周遊する来園者に好評である。</p> <p>台風等による土砂の流出にも対応しているが、園路は広範囲であり、優先順位をつけ、予算内において補修・整備をする。</p>

#### B. 古墳群の日常的な保守管理

令和2年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に点検を実施。特に草木の伐採は優先順位をつけて実施。業務日誌をつけて点検箇所を確認する。
自己評価・課題・改善案	<p>草木の伐採は年間でスケジュールを組んで計画的に行っている。</p> <p>多数ある公開古墳周辺を中心に草刈りを実施した。</p>

### ②保存・整備

#### A. 使命・計画に基づいた保存整備

令和2年度目標	第2期整備を完了する。整備検討会及び文化庁の指導を得ながら年度末までに第3期整備計画を策定する。
自己評価・課題・改善案	第2期整備(前山A58号墳等の整備)を完了し、全体計画に影響なく進めた。整備検討会を3度開催し、意見を取り入れながら年度末に第3期整備計画を策定した。

## B. 古墳群の整備・修景

令和2年度目標	天王塚古墳の整備基本設計を行うとともに連絡道路の設置事業を進める。崩壊の危険がある古墳の埋め戻しと修景工事を実施する。事業は国庫補助を受けて行う。
自己評価・課題・改善案	天王塚古墳の整備は3案を検討したうえで方針を決め、整備基本設計を行った。連絡道路工事については砂利の流出もあり遅れているが、令和3年度末には完成を目指す。 古墳の埋め戻し、修景工事は前山B132号墳を対象に実施した。

## C. 展示及びその他の博物館活動への反映

令和2年度目標	発掘調査・整備成果を展示及び博物館活動へ反映するとともに報道関係等への資料提供などにより県民及び県外の人たちへ広報を行う。
自己評価・課題・改善案	大日山35号墳、大谷山22号墳、天王塚古墳、前山A58号墳等で出土した埴輪や土器を展示し、大規模展として広報し、4,348名の見学者があった。

## D. 学術的公表（報告書等）がなされているか。

令和2年度目標	天王塚古墳発掘調査事業を実施し報告書を刊行する。
自己評価・課題・改善案	『特別史跡岩橋千塚古墳群 天王塚古墳 2次・3次発掘調査報告書』及び『特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書4』を刊行した。

## E. 古墳群の管理

令和2年度目標	古墳カルテの更新、石室のモニタリングを計画どおり実施する。
自己評価・課題・改善案	古墳カルテの更新をおこなった。石室のモニタリングについては、年1回と年4回のモニタリングが必要な古墳に整理して引き続き実施する。

### ③公開・活用

#### A. 計画的な公開

令和2年度目標	公開古墳は引き続き石室等を安全に見学できるように対応する。非公開古墳は期日を定めて石室を公開し、県民に周知する。
自己評価・課題・改善案	公開古墳のうち前山A13号墳及び大日山35号墳の排水溝の発掘調査を実施した。令和3年度の公開に向けた整備実施計画を進める。

#### B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査

令和2年度目標	園路設置の意見箱を活用するとともに、来館者へのアンケートで整備に関する意見についても追加して満足度とニーズを把握する。
自己評価・課題・改善案	特段の意見はみられなかったが、散策者や学校関係者等から、古墳群の見学・体験について高い評価を得ている。

#### C. アンケート調査結果の公開活用事業への反映

令和2年度目標	アンケート分析結果について必要な内容を抽出し必要に応じて整備計画に反映する。
自己評価・課題・改善案	日頃からイベントなどで行っているアンケートのほか、公開活用事業へ反映できる意見を抽出できるよう聞き取り調査を進める。

## 2. 資料の収集、保存、保存環境の整備

館長による所見	<p>この数年の間の課題となっているが、資料の収蔵スペースが不足している。</p> <p>新館建設が延期される中、資料の購入や寄贈の受け入れは現状のまま進める。収納・保存は、県教育委員会と協力して適切に移動等をおこない、良好な保存環境を確保していく。</p>
評価部会による所見	<p>資料の購入や寄贈の受け入れは、地域の博物館としての機能を維持するための基本的な姿勢の堅持であり、スペースの不足という逆境にもかかわらず、長期的かつ積極的な解決策を目指している点で評価できる。難しい課題であるが、新館建設の実現時期を視野に入れつつ、もっとも合理的な移動等の措置が、計画的に進行することを望む。</p> <p>大型の民俗資料の運搬、展示には、多くの困難が伴うが、企画の充実に必要と判断した時は、十分な配慮の元の実現してほしい。</p> <p>現在の博物館にあっては、ホームページが重要な役割を果たしており、早急にリニューアルを完了してほしい。</p>

### ①資料収集

#### A. 適正な手続きに基づく資料の収集

令和2年度目標	適正な手続きに基づき資料を収集する。資料収集方針について館内で検討する。
自己評価・課題・改善案	<p>紀伊風土記の丘考古資料及び民俗文化財選定委員会を設置要綱を定め、3月11日に開催したうえで、岩橋千塚古墳群出土品のうち旧海草郡西和佐村大字岩橋字大岩谷出土資料31点を購入した。当該資料は学史上知られた資料を含み、鉄製品・銅製品が多く、今後の研究と、適切な保管・保存処理をする。</p>

### ②資料の保存

#### A.. 資料の保存環境は適切か。

令和2年度目標	温湿度データを取得しながら壁面ケース等湿度管理のできない展示ケースについての対応策を検討する。
自己評価・課題・改善案	<p>年間を通して温湿度データを取得した。特別展等で借用する資料のうち、特に温湿度管理の必要な金属製品・木製品、文献資料等についてはエアタイトケースを使用している。</p> <p>大型の民俗資料については、企画展での借用時に展示環境について説明し、展示可能な資料を展示した。今後の借用については課題を残す。</p>

#### B. 資料の保存処理

令和2年度目標	岩橋千塚古墳群出土品を中心に保存処理が必要な金属器等資料のリストアップを行い、金属収蔵室で保管する。予算状況に応じて順次保存処理を実施するとともに、保存処理の優先順位が低い資料についてはRPシステムで応急措置を行う。
自己評価・課題・改善案	金属製品については、金属収蔵室で保管している。保管環境の悪い中、適切に温湿度管理を行う。

#### C. 資料の整理

令和2年度目標	収蔵資料の再整理を行う。また、天王塚古墳の発掘調査報告書を刊行する。
自己評価・課題・改善案	資料整理を行い、天王塚古墳第2次・3次調査の発掘調査報告書を刊行した。

### ③資料の管理

#### A. 資料の点検

令和2年度目標	毎日、開館前と閉館時に展示室及び収蔵施設の資料について目視点検を行いチェックを行う。
自己評価・課題・改善案	展示室・収蔵庫内の資料及び展示・収納ケース内の以上のないことを目視で点検するとともに、温湿度を器財を用いて点検している。

#### B. 資料の管理（台帳、データ）

令和2年度目標	収蔵資料の再整理を行い台帳・データベースを作成し、管理を行う。
自己評価・課題・改善案	柳川家の民俗資料を整理し200件分の目録を作成し、その内容は風土記の丘の研究紀要に掲載した。

### ④資料の活用

#### A.. 他機関への資料の貸出

令和2年度目標	他機関への収蔵文化財の貸出を行い、収蔵文化財の活用を推進する。
自己評価・課題・改善案	岩出市歴史民俗資料館へ根来寺遺跡出土遺物を貸し出す等、継続的な資料の活用を図っている。

#### B. 図書の収蔵

令和2年度目標	報告書等の寄贈図書について再整理を行い、使用頻度の低い図書を収納しスペースを確保することにより効率的な活用ができるよう整備する。
自己評価・課題・改善案	近畿地方以外の府県の寄贈図書のうち、一部必要な図書を除いたうえで、書庫から外して収納した。紀伊風土記の丘の所蔵図書が分かるように、今後書籍の小口ないし目立たない場所に押印する。

#### C. 資料のデータベースの公開

令和2年度目標	近年の追加資料のデータを整理後公開する。
自己評価・課題・改善案	資料データの公開はできていない。ホームページはリニューアル中で、安定した管理環境が整い次第公開予定。

### 3. 調査・研究及び展示・公開

館長による所見	<p>特別展、企画展とそれに関連調査・研究については、ほぼ計画どおり実施できている。</p> <p>特別展は、和歌山市の所蔵している岩橋千塚古墳群関係資料の調査をおこない、大谷山22号墳の未公開資料の展示をおこなうことができた。シンポジウム・講座を開催したが、コロナ禍により参加者数を制限した。</p> <p>企画展は、骨・木器・獅子頭の内容の濃い展示をおこなった、展示図録を作成していない。今後の課題である。</p> <p>当館は一般的な博物館学芸員とは業務内容が大きく異なるが、新館建設に向けて予算の確保、業務量の整理、人員の確保などの体制整備を行い、科学研究費の助成を受けることができる研究機関を目指す。</p>
評価部会による所見	<p>新型コロナウイルス感染拡大という制約下で、各種展示は高いレベルで行われ、大きな成果となった。展示図録は、博物館ならではの研究成果を高い可視性で、社会に示すための重要な公器であるので、これも含めて市民参加型のオープンな研究活動を可能にする競争的資金の獲得体制をつくることは、重要な課題である。</p> <p>特別展では、岩橋千塚の埴輪だけではなく、全県下の埴輪の収集に大変な努力がはらわれた。図録「埴輪が語る古墳の祈り」は和歌山における埴輪研究の基本的な文献となるものと考えられる。</p> <p>人的な制約、施設面での課題を抱えながら、調査研究やその成果の発信の面では、紀伊風土記の丘の懸命の努力を感じる。</p> <p>ホームページもリニューアル中とはいえ、かつてのものから大きく変わり、更新の頻度も高まっています。紀伊風土記の丘の活動の公開という点では、大きく評価できる。</p> <p>企画展については、展示図録作成ができなかったことは、今後の課題である。</p> <p>コロナ禍で、特別展等の事業が実施できたことは良かった。入館者の減少で有効なアンケート調査ができなかったことはやむを得ない。</p> <p>研究面では、県立施設でも有り、科研費の助成を受ける機関になることを是非実現してほしい。</p>

#### 3-1. 調査・研究

##### ①調査

##### A. 計画に基づいた調査・研究

令和2年度目標	各機関へのアンケート、文献・資料調査等、展覧会に関連した調査・研究を行った上で、展示等へ反映する。
自己評価・課題・改善案	特別展「埴輪が語る古墳の祈り」の展示に関連する悉皆調査及び研究を行った。この他、企画展の開催に関連して、調査研究を行った。これ以外の基礎調査・研究が可能な体制を整えることが今後の課題である。

##### B. 外部機関・団体等との共同調査・研究

令和2年度目標	環境整備に向け検討する。
自己評価・課題・改善案	コロナ禍により、ウイルス対策の徹底をした。今後は、オンライン化の整備を進めながら、各業務を進めていく。

## ②調査・研究成果の活用

### A. 展示及びその他の博物館活動への成果の反映

令和2年度目標	調査・研究成果を特別展等で活用し、広く県民に広報する。
自己評価・課題・改善案	以前から和歌山市の協力を得て進めていた大谷山22号墳・花山6号墳の埴輪の調査成果を特別展で活用する等、当初の予定どおり調査・研究成果を特別展や講座等に反映した。各企画展では展示講座を開催し、特別展では、シンポジウム2回、関連講座2回を実施することで展示内容を広く県民に広報した。今後も、展示への理解が深まるよう努め、展示と関連したイベントを企画していく。

### B. 学術的公表（館研究紀要、学会誌等）

令和2年度目標	館研究紀要等に調査・研究成果を公表する。
自己評価・課題・改善案	『紀伊風土記の丘研究紀要9』を刊行し、調査研究成果を13本公表した。

## 3-2. 展示・公開

### ①常設展

#### A. 計画的な展示替え

令和2年度目標	特別展後などの期間を利用し、岩橋千塚を中心としながらも通史、県内の民俗文化財を把握できる展示とする。
自己評価・課題・改善案	計画通りに展示できた。

#### B. 計画的な保守・管理

令和2年度目標	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施。また、重要文化財をはじめとした資料の防犯対策のため、監視カメラでの管理を適正に行う。
自己評価・課題・改善案	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施し、展示ケースの施錠を確認した。

#### C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和2年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらえよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	設置場所の改善とともに受付時に手渡しをする等により、アンケート調査を実施し、展示内容の他についての意見も徴取したが、有効な意見は取得できていない。

#### D. 入館者の常設展示に対する満足度

令和2年度目標	アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握した上で、展示内容の変更やスポット展等を企画する。
自己評価・課題・改善案	常設展については、常設展のみの期間が短く来館者も少ないことから、有効なアンケート結果を得ることができなかった。より多くの来館者の意見を聞けるようアンケート方法等を工夫する。

## ②特別展・企画展

### A. 展示の内容、出品資料、構成、工夫等

令和2年度目標	協議会、整備検討会の意見を受け適正に実施する。
自己評価・課題・改善案	協議会を2回、整備検討会を3回開催し意見を受け、展示の構成を考えたうえで、展示資料を追加した。

### B. 図録・パンフレット等の作成

令和2年度目標	特別展では図録、ポスター、リーフレット、企画展ではリーフレットを作成する。
自己評価・課題・改善案	特別展では図録、ポスター、リーフレットのほか、講座の予稿集を作成し、企画展ではリーフレットを作成した。

### C. 特別展見学者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和2年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらえよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	特別展のアンケートは、展示の最後にアンケート用紙と投函用の箱を設置した。アンケート調査の結果、特別展では158件回答があり、満足度は5段階評価で、「とても満足」が47%、「満足」が45%、「ふつう」が8%、「少し満足できなかった」及び「満足できなかった」は無しであった。上位2段階の評価が92%を占め、満足度は非常に高い。

### D. 特別展見学者の展示に対する満足度

令和2年度目標	アンケート調査を分析し、満足度とニーズを把握した上で次年度以降の展示内容に反映する。
自己評価・課題・改善案	展示解説を3回実施し満足度の向上を図ったが、もっと解説を増やしてほしい、パネル文字の大きさを大きくしてほしいという意見があった。今後検討していく。

## ③県民ニーズに即した運営

### A. 資料館入館者数：当該年度の入館者数

令和2年度目標	新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標人数は設定しない。他府県も含め、来館のない小中学校を主に訪問しPRする。また、マスコミ活用や公共施設、商業施設へのポスター、チラシの設置等、広報の内容・方法を工夫し、より強化するとともに、県立学校や他の博物館が主催するイベント等へも出向きPRを行う。
自己評価・課題・改善案	コロナ禍により、入館者数は半減した。特に遠足数が減少した。

### B. 入館料収入。当初計画に対する実際の収入達成率

令和2年度目標	新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標収入は設定しない。
自己評価・課題・改善案	コロナ禍により、大きく落ち込んだ。

### C. 外部助成金等を獲得

令和2年度目標	令和3年度の特別展において「海の学びミュージアムサポート」の補助申請を行う
自己評価・課題・改善案	特別展において「海の学びミュージアムサポート」の補助申請を行った。

### D. 調査結果を受けた運営

令和2年度目標	調査結果を分析し、運営方法の改善を行う。
自己評価・課題・改善案	調査結果を分析し、運営方法の改善を行った。



#### 4. 学習支援・教育普及活動・人材育成

館長による所見	<p>学校の遠足対応やモノづくり体験、ふどきっずなど、学習支援・教育普及活動は紀伊風土記の丘が全国的に進んだ状況にあったが、コロナ禍により、遠足受入やイベントの大半を中止もしくは縮小をした。</p> <p>人材育成につながる業務として、博物館実習やインターンシップの受け入れや、ジュニア考古学の募集・展示等は実施した。</p>
評価部会による所見	<p>コロナ禍により、当初計画の中止、変更を余儀なくされながらも、十分に効果的かつ充実した活動が行えた。出前授業の実績が上昇する等、状況に対応した具体的な努力を実績につなげた点は、高く評価する。</p> <p>このような時こそ、内容の充実にむけて検討を重ねてほしい。</p> <p>ポストコロナの社会に向けて遠隔という条件でも効果を発する新しい手法やデバイスも視野に入れつつ、今後に向けて展開することが期待される。</p>

##### ①学校・団体の利用

##### A. 学校・団体の受入数、受入人数。（一般団体除く）

令和2年度目標	<p>新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。引き続き、県内、他府県及び各種団体へもPRする。訪問先の学校等では具体的なプランやカリキュラムへの位置づけを示す。また、引き続き、中高生へもPRする。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>新型コロナウイルスの影響により、来館校数は121校6,285名から、75校3,797名へと減少した。</p>

##### B. 出前授業の件数、利用者数。

令和2年度目標	<p>新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。県内の遠方を含む来館実績のない学校等に出向いて出前授業の内容、カリキュラムへの位置づけ、具体的な単元設定の説明を行う。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>風土記の丘への遠足が減少したが、出前授業の要望は28団体あった。</p>

##### C. 職場体験実習・職場体験学習の受入数。

令和2年度目標	<p>高校生及び大学生インターンシップ、就業体験、実習訓練等について、人員、日程等を勘案し、可能な範囲で各数名程度受け入れる（前年並み）。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>高校生インターンシップ4名、大学生インターンシップ1名、就業体験・実習訓練19名について受け入れた。</p>

##### D. 利用者の満足度、ニーズ

令和2年度目標	<p>遠足等実施前後に教員等から遠足の目的やカリキュラム上の位置づけ等の意見を聴取する。また、学校を訪問した際、校長等から聞き取りを行い、遠足実施の評価や新たなニーズを把握する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>事前打ち合わせの後及び実施後聞き取りを行った。体験学習等に関する改善要望は特になく、学習のねらい、内容のニーズに答えられている。今後も意見の聴取を行い、児童生徒、学校の学習やねらい等のニーズに応じた学習支援を行う。</p>

②講演会・博物館講座・展示解説等

A. 講演会・博物館講座・展示解説等の回数。

令和2年度目標	新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。十分な安全対策を講じた上で実施する。
自己評価・課題・改善案	講演会・講座・展示解説については、当初の2分の1の定員で安全対策を講じて実施した。

B. 講演会・博物館講座・展示解説等の参加者数。

令和2年度目標	募集定員の50%以上（前年度目標並み）。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集定員は会場収容人数の50%とする。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染防止対策のため、募集定員は会場収容人数の50%とした。

C. 参加者の満足度、ニーズ

令和2年度目標	アンケートにより把握する。また、講演等終了後直接聞き取りを行う。
自己評価・課題・改善案	各講座・講演会ごとにアンケートを実施し、その都度発表内容・方法について調整した。

③体験学習・ワークショップ・関連行事等の体験的プログラム。

A. 体験学習等の回数。

令和2年度目標	コロナ禍の影響を想定できないため、目標数は設定しない。体験の種類ごとに安全対策を講じた上で実施する。感染リスクの少ない体験イベントを追加実施するなど柔軟に対応する。園内ポスターやホームページ、マスコミ等により広報を充実させる。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルスの影響をが長引き、体験学習回数は激減した。感染症対策を念頭に置いて実施した。

B. 体験学習等の参加者数。

令和2年度目標	募集定員の80%以上（前年度目標並み）。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント内容に応じて募集定員を減らすなどの対策を個別に検討する。
自己評価・課題・改善案	講座・講演の募集定員を2分の1としたため、募集定員に対しては80%以上の参加者があったが、全体としては減少した。

C. 参加者の満足度、ニーズ

令和2年度目標	アンケート及び参加者に直接聞き取りを行い、満足度をチェックする。
自己評価・課題・改善案	体験イベント参加者を対象にアンケート調査を行った。満足度は5段階評価で「とても満足した」が74%、「満足した」が14%、「ふつう」が8%、「少し満足できなかった」が0.5%、「満足できなかった」が0.5%、無回答が3%であった。上位2段階の評価が88%を占め、満足度は非常に高い。引き続きニーズや満足度等の聞き取りを行いながらイベントを実施していく。

#### ④博物館実習

##### A. 博物館実習生・インターンシップなどの受け入れ

令和2年度目標	人員や日程等を鑑み、博物館実習生・インターンシップなどを受け入れ、考古・民俗学に興味を持ってもらうとともに、仕事に対する意欲、関心を高める。
自己評価・課題・改善案	8月末に博物館実習の実施及びインターンシップ受け入れをおこない、考古学・民俗学への関心を高めた。

#### ⑤ボランティア

令和2年度目標	ボランティア養成講座により新たなボランティアを養成する。活動中のボランティアの育成及び活動の支援並びに連携を実施するとともに生涯学習に役立てる。
自己評価・課題・改善案	ボランティア養成講座を開催し、2名のボランティアを養成した。

#### ⑥県内博物館施設との連携

##### A. 連携事業の実施

令和2年度目標	スタンプラリー、風土記まつり等の実施により、県立博物館4館で連携事業を実施する。
自己評価・課題・改善案	コロナ禍により風土記まつり等人が集まるイベントは中止した。

#### ⑦県民ニーズに即した運営

##### A. 入館料以外のその他の収入

令和2年度目標	新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標収入は設定しない。
自己評価・課題・改善案	出前授業の実施や勾玉キットなど自宅で体験できるものを販売することにより、一定の収入を確保した。

##### B. 上記結果を受けた運営

令和2年度目標	上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討する。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に置いて、対処した。

## 5. 博物館の運営

館長による所見	<p>県での新型コロナウイルス対策等のため、風土記の丘の新館建設計画が遅延する見通しとなっているが、古墳群の整備事業やホームページ・3Dコンテンツの作成など、必要な作業を進める。</p> <p>イベントの中止や参加者数の減などの活動制限もあり、入館者数は全体として減少しているが、「おうちで勾玉づくり」セット販売は好調であり、工夫しながら博物館活動を続ける。今後も、状況に応じて、柔軟に対応していく。</p>
評価部会による所見	<p>コロナ禍の社会状況に対応した具体策を展開して活動を続けている点は、高く評価する。</p> <p>新館建設計画の遅延は残念であるが、やむを得ない。検討のための時間が十分確保できたとプラス思考で臨んでほしい。新館建設計画の実現が具体化するまでの間は、状況の変化による柔軟な意思決定などのフレキシビリティが運営に求められるが、状況の柔軟な対応を続けていくことによって、展望は開けると期待できる。</p> <p>民俗博物館が全国的に衰退にある中、当館の移築民家での活動が、今後益々期待されると考えている。その牽引役を果たしてほしい。</p>

### ①組織・人員

#### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等及び同体制についての日常的な取り組み

令和2年度目標	紀伊風土記の丘の防災計画指針・紀伊風土記の丘暴漢等侵入者対応指針について、職員全体で読み合わせを行い、役割分担等を確認する。また、防災訓練等を行う。
自己評価・課題・改善案	当館における「自衛消防組織」及び「暴漢等侵入者対応組織」のマニュアルを作成し4月の全体会議で職員に役割分担の確認を行った。文化財防火デーに合わせて防火訓練を行い、有事の際の役割、動きの訓練を行った。

#### B. 個人情報の適切な保護・データ管理

令和2年度目標	和歌山県個人情報保護条例に基づいて行う。
自己評価・課題・改善案	和歌山県個人情報保護条例に基づいて実施。

#### C. 館内外の研修に対する職員の参加体制及び参加実績

令和2年度目標	職員に可能な限り受講を奨励し、研鑽を積む。必要な情報は全員参加の館内研修や月例会で共有する。
自己評価・課題・改善案	教育庁及び館内の人権研修を受講し情報共有を行った。また、専門的な研修等スキルアップのための外部研修には業務の都合等により出席できていない。

### ②県民ニーズに即した運営

#### A. 園内利用者数：当該年度の利用者数

令和2年度目標	新型コロナウイルスの影響を想定できないため目標数は設定しないが、受け入れ可能な環境は整える。
自己評価・課題・改善案	194,419人（前年度比98,6%）。H25年頃から入館者と同様に減少傾向にある。今後も魅力ある史跡整備、広報に努める。

B. 民家利用件数：当該年度の利用件数

令和2年度目標	新型コロナウイルスの影響を想定できないため、目標数は設定しない。申請があれば、従来どおり受け入れる。
自己評価・課題・改善案	民家を利用しての「昔の暮らし」体験は減少したが、自由にウォーキングをする来園者や民家散策者数は例年並みとなっている。

③施設設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、改修や修繕、衛生管理

令和2年度目標	建築・設備などの定期点検を実施、改修等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善案	日常、職員による施設の目視点検を行い、日誌に記録。毎年、建築基準法第12条に基づく定期点検業務を実施。

B. 園内の日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持、衛生管理

令和元年度目標	館の業務員により計画的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善案	日常、職員による園内の目視点検及び必要に応じて修繕対応し、今後も引き続き実施する。

C. 民家の日常的なメンテナンス等による施設の保守管理、毀損個所の修繕や予防措置

令和元年度目標	館の業務員により日常的なメンテナンスを毎日実施。修繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。毎日業務日誌をつけて確認をする。
自己評価・課題・改善案	来園者、来館者に安心安全に利用いただくため、毎日職員による目視点検を行い、日誌に記録。必要に応じて設備等の修繕等、整備を行っている。

D. 新館建設計画・各民家の保存活用計画

令和2年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設基本計画を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を検討する。
自己評価・課題・改善案	県立考古民俗博物館（仮称）基本計画の中で、史跡地内に含まれる移築民家の活用について定めている。

④快適性の向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応

令和2年度目標	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。
自己評価・課題・改善案	バリアフリー対策はハード面、ソフト面ともに可能な範囲で対応済みである。特にソフト面については、1月に職員人権研修を行い職員全体で対応マニュアルの確認及び合理的配慮の必要性を確認した。令和3年度も引き続き実施する。今後は、新館構想に合わせ、より分かりやすく、すごしやすい合理的配慮の提供を検討、実施する。

B. 快適性の向上について上記以外の整備

令和2年度目標	県民が園内全体において快適に利用し、心身ともに満足してもらえるよう取り組む。
自己評価・課題・改善案	園内利用者に向けた案内板を設置するなど設備改善を実施した。

⑤民家

A. 計画的な公開

令和2年度目標	今年度の民家ガイドイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で中止としたが、当館のイベントとして民家を活用できる方法について検討を行う。
自己評価・課題・改善案	和歌山県文化振興財団の主催として、旧柳川家住宅で「わかふるコンサート」を10月17日（土）に開催した。

B. 建物の個性・魅力をひきたてる活用

令和2年度目標	小学校の社会見学をより広めるとともに、他団体の民家利用についても促進する。
自己評価・課題・改善案	昔のくらし体験で民家を利用している。令和3年度特別展では、漁家である旧谷山家住宅にて、漁具の展示を計画。

⑥広報・情報発信

A. 県民からの直接的情報提供：問い合わせ（電話、来館等）に対する適切な対応

令和2年度目標	相談者個々に対して丁寧に適切な対応をすることを職員一同確認する。
自己評価・課題・改善案	個々の問合せを適切に対応し、特に問題はなかった。今後も引き続き同様に丁寧な対応を行う。

B. メディアへの情報発信

令和2年度目標	各月ごとに加えて参加者が少ないと見込まれるイベントについて記者クラブへ資料提供を行う。特別展、企画展やイベントについて、直接メディアに出向いて広報する。
自己評価・課題・改善案	各イベントを報道関係に資料提供した。加えて新聞社やテレビ局に出向いて広報を行った結果、テレビ、新聞等数多く取り上げられた。

C. ホームページによる広報：ホームページアクセス件数、更新回数。

令和2年度目標	ホームページ及びFacebookの閲覧数ともに令和元年度を上回るよう、即時的にイベントの情報や結果、満足度を広報するなど内容の充実化を図る。
自己評価・課題・改善案	ホームページに動画を投稿して、園内案内や埴輪・勾玉の作り方などをみられるようにしている。FacebookやTwitterで月に3～5回情報発信をし、好評を得ている。

D. 広報印刷物の制作：ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動

令和2年度目標	イベントガイド、特別展ポスター・チラシを作成。その他の展示・イベント等はプリンター・輪転機により作成。市町村教育委員会校長会に出向いて直接校長へアピールするとともに、必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布する。
自己評価・課題・改善案	当初予定どおり実施したが、学校への広報については、来館の状況を把握し直接学校を訪問した。イベントごとにチラシの掲示も行った。

E. 使命、目標、計画等の公開

令和2年度目標	ホームページに公開する。
自己評価・課題・改善案	ホームページで博物館評価制度について公開している。